

幼児は生活の中にある標識をどう認識しているのか —領域「環境」の視点から—

How Toddlers Perceive Signs in Life -From the perspective of the area "environment"-

佐藤 智恵

要旨

本研究の目的は、幼児が生活場面で触れているであろういろいろな標識について、どのような認識を持っているかを明らかにすることである。幼児30名（年長児16名、年中児14名）に対し、生活の中で目にする8つの標識やマークの提示を行い、幼児がどう認識しているかについて聞き取りを行った。その結果、認識のバリエーションが少ない標識と、いろいろな捉え方をしている標識があることが明らかになった。同じような認識をしている標識については、幼児の生活に密接であり、標識やマークの使用目的も明確であると考えられる。一方、多様な認識が見られたものとして、車椅子マークと非常口マークが挙げられる。また特筆すべき事項として、「男性は青」「女性は赤」という色の違いにより性別を判断している語りが複数の年長児に見られたが、それに関する明白な理由は存在しなかった。幼児の中で言語化したり説明ができないものの、なんらかの経験の中で身につけた認識としての「男性は青、女性は赤」という法則が、自明のものとなっていることが考えられた。

キーワード：保育内容「環境」 幼児 生活の中の標識

I. 問題と目的

現在、保育内容に関する様々な研究が行われている。5領域それぞれに研究が蓄積されており、保育内容「環境」の領域においてもそれは同様である。具体的には、保育内容「環境」の指導法に関するもの（小山，2020；金山，2019）、保育者養成校で学ぶ学生の領域「環境」への理解に関する研究（青山，2020；田中，2020；内藤ら，2020）などが見られる。また領域「環境」の具体的な内容については、自然の事項に関するもの（柳原，2020）、生き物に関するもの（柳原，2018）、数量の事項に関するもの（胡ら，2020；山田ら，2019；片山，2019）、文字や図形、数字に関するもの（篠永，2018）、伝統行事に関するもの（増田，2019）、地域社会や文化に関するもの（山路，2018；遠山，2018）などの研究が蓄積されている。そのような中、領域「環境」で取り扱う事項の1つである標識などに関する研究はほとんど散見されない。唯一、高橋ら（2018）が、保育内容（環境）の指導に利用することを目的とし、ロゴマークと道路交通標識についての保育者養成課程に在籍する学生らの知識を調査したものがみられるのみである。

標識の扱いについては、幼稚園教育要領解説書（2018）においても、幼児が生活の中で交通標識や園内にある標識など様々な標識に触れたり、生活をしたり、遊ぶ中で標識が意味やメッ

セージを持っていることに気づく重要性が示されている。生活の中でいろいろな標識の持つメッセージを幼児がどう捉えているかということをはっきりとすることで、保育実践において生活や遊びの中で標識をどう取り入れるかということへの示唆が可能になるとと思われる。そこで本研究では、幼児が生活場面で触れているであろういろいろな標識について、どのような認識を持っているかを明らかにすることを目的とする。

II. 研究の方法

1. 調査日時と場所

2020年12月、A市にあるB幼稚園の応接室にて調査を行った。

2. 対象児

年長児16名 年中児14名 合計30名

3. 調査方法

応接室は、職員室内にあり普段幼児らが使用しない部屋であるため、緊張することを防ぐために担任教諭に2、3名ずつ応接室に連れてきてもらう。幼児の様子によって、担任教諭や筆者、幼児同士で短時間会話をして緊張をほぐしてから調査を開始した。

具体的な方法としては、1人ずつ筆者の隣に座り、標識シートを見て、知っているものを答えてもらった。2番目、3番目の子どもたちはその場にいたものの、幼児同士で会話をするように勧め、先に回答している幼児の語りは聞けないような状況にした。

4. 標識シートについて

幼児が普段の生活の中で目にすることが多いと思われる8つの標識やマークをA4サイズの用紙に記載したものである。幼児が手に取って見られるようにラミネートフィルムで加工した。

8つの標識やマークは、道路交通標識（一時停止）、郵便記号、トイレマーク、駐車場マーク、車椅子マーク、ソーシャルディスタンスを呼びかけるマーク、一般的によく知られるコンビニエンスストアのロゴ、非常口の8種類である（図1）。道路交通標識（警視庁，2018）、郵便記号（郵便局，2020）、車椅子マーク（日本障害者リハビリテーション協会，1969）、非常口（国際標準化機構，1987）から引用、コンビニエンスストアのロゴは当該会社のホームページより、駐車場マーク・トイレマークは無料イラスト素材のホームページより引用を行った。ソーシャルディスタンスを取ることを示すマークは、文字を使用せずピクトグラムと矢印のみで表すものを筆者が作成した。なお、今回の論文作成にあたり図1では、コンビニエンスストアのロゴは加工している。

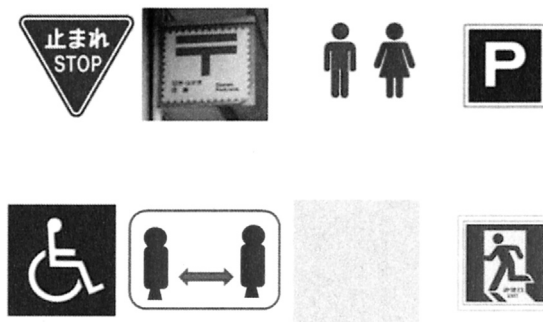


図1 幼児に提示した標識シート

質問の方法としては、初めに標識シートを提示し「この中で知っているものあるかな？」と尋ねる。答える順番は筆者が指定せず、幼児が答えたいものから聞き取りを行うこととする。回答の中で、幼児が自らの経験を自発的に話した場合は、それに対して肯定的な返答を行い、語りやすいような雰囲気作りを心がける。幼児が標識を見た経験などについて詳細について語らなかった場合は、筆者の方から「どこで見たことがあるか」「どういう意味か知っているか」を確認し、語りを引き出すこととする。

また、本研究では、「標識を正しく理解しているかどうか」ということは問題とせず、「幼児が標識をどう認識しているか」ということを明らかにすることを目的としているために、事実と異なる回答であった場合も「よく知っているね」と肯定的な言葉をかけることとし、改めて正しい回答を伝えることはしない。

標識シートをじっくり見れるように時間を取り、全ての標識について答えるか、「これ以上は不明」という回答が出るまで待つこととする。

Ⅲ. 結果及び考察

1. 標識について、回答を行った人数

まず初めに、それぞれの標識について、幼児が何かしらの回答を行った人数について述べる。ここでは、正答でないものも幼児が何らかの回答をしたものについては「回答あり」に含めた。また、「みたことはあるが、意味は分からない」という旨の回答についても、「回答あり」として扱うものとする。幼児の中には自ら標識を指さし「これは分からない」と答えたものがあった。これについては回答しているもののその標識についての語りはされていないものとみなし、「回答あり」からは省いた。

一時停止標識については、30名中26名（内訳：年長児13名、年中児13名）の語りがあった。郵便標識については30名中21名（年長児13名、年中児8名）、トイレマークは24名（年長児13名、年中児11名）、駐車場マークは14名（年長児9名、年中児5名）、車椅子マークは16名（年長児9名、年中児7名）、ソーシャルディスタンスを取ることを求めるマークは19名（年長児10名、年中児9名）コンビニエンスストアのロゴは19名（年長児10名、年中児9名）、非常口マークは22名（年長児13名、年中児9名）であった。

表1 標識について、回答を行った人数

	一時停止	郵便局	トイレ	駐車場	車椅子	ソーシャル	コンビニ	非常口
回答あり	26	21	24	14	16	19	19	22
回答なし	4	9	6	16	14	11	11	8

2. 標識に関する幼児の認識のバリエーション

本研究では幼児の回答の正誤を確認することを目的としない。調査の結果、幼児の標識の認識には様々なバリエーションがあった。ここでは、それぞれの標識に関する幼児の認識について述べる。回答にあまりバリエーションのないものもあれば、いろいろな語りが見られたものがあった。本稿では枚数の関係からバリエーションの多かった「トイレマーク」「車椅子マー

ク」「非常口マーク」の3つについて詳細に分析を行い、他の標識については概略を述べるに留める。まずはバリエーションのあまりなかった5種類の標識について述べる。

(1) 一時停止標識

一時停止標識に関しては、回答があった26名中25名が「とまれ」という意味の標識だと認識していた。うち、信号機が設置された場所にある標識だと答えたものが4名いた。一時停止の標識は信号機のない交差点や見通しの悪い場所に設置されるものであるが、幼児にとっては「止まる」という行為が「信号機」と結びつきやすいのかもしれない。一時停止の標識で「車が止まる」と回答したものは2名、「歩行者が止まる」と回答したものは6名であった。一時停止の標識は、歩行者でなく車両を対象とした標識であるものの、幼児は保護者と一緒に、また園外活動などで道路を歩行する際に、一時停止の標識のある場所では安全に配慮し、止まる経験をしているのかもしれない。それらの経験からこのような回答が表出したことが考えられる。

(2) 郵便局マーク

郵便局マークに関しては、「回答あり」だった21名全員が郵便の意味を理解しており、ハガキを出す、荷物を送るなどの回答が見られた（「これさ、ポストのマーク。手紙とかハガキとか入れるところ。やったことはないけどみたことある【年長児11】」、「郵便 あの・・・あのお手紙を出す【年中児4】」）。

(3) 駐車場マーク

「回答あり」だった14名中、13名が車を停める場所を示すマークであると認識していた。1名は、「見たことがあるが何かは分からない」という答えであった。

(4) ソーシャルディスタンスを取ることを求めるマーク

「回答あり」の19名中1名は「止まれのマーク【年中児12】」だと答えた。また、1名は「見たことある。○○○（近隣にあるショッピングモールの名前）で見た【年長児2】」と答えたが、どういうことを意味するマークかということへの言及はなかった。残りの17名は全て「他者と離れることを求めるマーク」であると認識していた。17名中1名のみが「ぶつかる危険いから離れてってということ【年長児12】」と話したが、他の16名からは「コロナウィルス」「ソーシャルディスタンス」などという言葉を用いて、近隣のショッピングモールや店舗などでこのマークを目にした経験が語られた。幼児たちの生活の中にも新型コロナウイルスが大きく影響していることがうかがえる語りであった。

(5) コンビニエンスストアのロゴ

これについては「回答あり」であった19名中、5名が具体的な店名を述べ、7名が「コンビニ」だと回答した。2名が「お店のマーク」だと答え、1名は「見たことがあるけれど何かは不明」ということであった。残り4名はマークに入った牛乳缶について触れ「牛乳のマークだからお肉屋さん【年長児6】」、「これは牛乳【年中児14】」などと答えた。店名を認識していた幼児ほど、具体的な利用状況が語られ、幼児の生活にもコンビニエンスストアが深く根付いていることがうかがえた。

以上、認識のバリエーションがあまりなかった標識について述べた。これら5点については、幼児は生活の中で見たり、経験する機会の中である程度共通した認識を持っていることが考えられる。次に、認識にいろいろなバリエーションが見られた「トイレマーク」、「車椅子マーク」、

「非常口マーク」について述べる。また多様な認識のバリエーションが見られた3つについては、文末にすべての幼児の語りを掲載する。表には年長児・年中児の順に語りを掲載し、番号を記している。年中児は番号を□で囲み示す。筆者の語りは<< >>で示す。

(6) トイレマーク

トイレマークについては、「回答あり」だった24名中21名が「トイレのマーク」だと答えた。どの部分で判断したかを問うと「トイレ 女の子と男の子のマークがついてたらトイレって知ってるから【年長児6】」「これはトイレのマーク。こっちが女の子、毎日トイレ行ってるから【年中児5】」「スカートみたいになってるからわかる【年長児12】」というような語りがあった。残り3名のうち2名は「信号のマーク」「青信号と赤信号」と歩行者用信号機のマークと結びつけた語りであった（「これ。これは行くマーク。道路渡る時に。<<あ～信号の？>>ウン。<<こっちは？>>これは止まれっていうこと【年中児4】」、「これ、知ってる。赤信号と青信号【年中児13】」）。別の1名は「男女のマーク」だと答えた（「男子のマーク<<どっちが？>>こっちは男子でこっちは女子。色が青やから【年長児9】」）。歩行者用信号機を連想した2名以外19名中2名は「スカートみたいになってるから（女性だと）わかる【年長児12】」と人型の形で男女を判断している姿が見られた。年長児で語りの見られた13名中5名は、「青い人型を男性、赤い人型を女性」と色で性別を判断している語りがみられた。その理由を問うても「当然」「知ってる」というような語りが多く、明白な理由は存在しなかった。幼児の中で言語化した説明ができないものの、なんらかの経験の中で身につけた認識としての「男性は青、女性は赤」という法則が、自明のものとなっていることが考えられた。年中児にはそういった語りは全く見られず、年齢による認識の違いがあるのかもしれない。

(7) 車椅子マーク

この項目では、「回答あり」の16名のうち「車椅子」という言葉を用いた幼児が4名であった（「車いす。どんな意味かは分からん。エレベーターとかで見たことある【年長児1】」、「これはおっきなトイレの前に貼ってある。車椅子の人がちっちゃいから入れんから、入れますよっていうマーク【年長児16】」）。車椅子という言葉を知っていても、年長児1のようにそれが示す意味は分からないという幼児もいた。このマークが貼ってある場所について語った幼児が6名いた（「これ園バスにある<<どういう意味か知ってる？>>それは分からん【年長児4】」、「トイレのマーク お店とかでみたことある。お店の中で【年中児10】」）。

また、乳児が座る場所だと認識しているものが2名（「えっとこれなんやったっけ？みたことある。えっと…赤ちゃんが座るところ【年長児8】」）、カートだと回答したものが1名いた（「カート！これカート！【年長児5】」）。これら合計9名の幼児は、園生活や家庭生活の中のどこかで車椅子マークを目にしたことがあるものの、どういう意味合いを持つマークかということまでは知る機会がなく、自分自身の経験の中で何かしらの類似したものと関連付けて認識しているものと思われる。

高齢者や体の不自由な人が使用するものだと認識している幼児も3名存在した（「これは車とかに骨折してる人のこと。なんかさ、車を駐車場に停めるところの下に書いてある【年長児12】」、「これは、あのさ、車椅子だよ。こうしてな、足が動かない人はこういう椅子に乗ってな、ここにあるタイヤでこうやってしてな、そうして行くの。あのな、お外で車の一番下の所

に書いてあって、駐車場に停まっていいですよって書いてある【年中児5】」、「おじいちゃんとかおばあちゃんとかがこうやってこうやってする〔車椅子のタイヤを回すように腕を動かす〕、乗るやつマーク【年中児12】」。年長児12、年中児12は「車椅子」という言葉を知らずとも、どういう目的で使用するものかを理解しているようであった。この3名の語りからは、高齢者や身体の不自由な人が実際に車いすを使用するのを見た経験があることがうかがえた。

(8) 非常口マーク

このマークに関しては、「回答あり」が22名と比較的多かった一方、回答にいろいろなバリエーションが見られた。まずは5名の幼児が、非常口本来の意味を示す「火事など非常時の逃げ口」と認識していた（「火事が起こったら、ここから逃げてっていうマーク【年長児1】」、「非常口！火事とか起きた時に非常口のマークがあるところから逃げる。よう見るから知ってる【年長児16】」、「これ、火事の時とか地震の時とかに逃げるっていうマーク。ここから逃げる【年中児3】」、「逃げるマーク 火出るから、その時逃げる【年中児11】」、「逃げる場所。危ないことから逃げる【年中児13】」）。どの幼児も「逃げる」ということと関連付けた語りが見られた。

次に「出口のマーク」だと認識していた幼児が7名存在した（「これは出口。なんでかというのと、ここに出口って漢字で書いてあるから。違う？【年長児6】」、「えっと出口。幼稚園にもあった【年長児8】」、「あのさ、これは急に出てくる。上見てたら出てくる。出口やと思ってた【年中児5】」）この6名からは「逃げる」という語りはなく、単なる出入口として捉えているようである。確かに非常口マークは、日常的な出入りに使用する扉や出入り口についている標識であり、幼児にとっては出入り口を表すものとして認識することも自然な理解であると考えられる。

他には「見たことはあるけれど、意味は分からない」という旨の語りをした幼児が4名であった（「これも知ってる。あの夏とかプールとかで見たことがある。意味はわからない【年長児9】」、「これ、幼稚園にもある。みたことある。意味は分からん【年長児10】」、「う～ん、わからないけど、みたことがある。幼稚園とかにもある【年長児14】」）。この4名にとっては、非常口マークがどういう意味を持つ標識かは不明であるものの、日常的に目にしており、なじみのある標識であるようだ。このことから、幼児が生活の中で触れる標識に、関心を持っているということが言える。自分にとって意味が分からない標識であったとしても、自然と印象に残っていると思われ、幼児が様々な知識を経験の中で身につけているということの表れであると考えられる。

2名の幼児が「走らない」という意味合いを持っているマークであると答えた（「走らないっていうマーク。幼稚園のお部屋の中とかにある【年長児12】」）。これは避難訓練などで「走らない」という約束事をすることがあり、その影響ではないかと思われる。

その他のバリエーションとして「駐車場【年長児5】」、「止まるやつ。幼稚園にあった。これを見たら止まる【年中児2】」、「階段 階段があるよっていうこと【年中児12】」というものが1名ずつあった。以上、「非常口マーク」については7種類のバリエーションが見られた。幼児は非常口マークについては、他の標識と比較して、多様な認識をしていることが明らかになった。

IV. まとめ

本研究においては、幼児の標識の認識について調査を行った。年齢に関わらず、多くの幼児が同じような認識をしており、認識のバリエーションが少ない標識と、いろいろな捉え方をしている標識があることが明らかになった。同じような認識をしている標識としては、一時停止の標識、郵便局のマーク、駐車場マーク、ソーシャルディスタンスを取ることを求めるマーク、コンビニエンスストアのロゴであった。これらは幼児の生活に密接であり、標識やマークの使用目的も明確であるためにバリエーションが少なかったと思われる。

一方、多様な認識が見られたものとして、車椅子マークと非常口マークが挙げられる。この2点については、目にはしているものの、幼児にとって自らが日常的に利用したり、家族などが利用する機会が少ないためか、正しく認識していたものが少なかった。一方、子ども自身のもので経験を用いて、自分なりにその目的や意味付けをしている様子がうかがえた。幼児にはそのように「なんとなく理解する」という力を備えていることが推測される。

また特筆すべきものとして、トイレマークが挙げられる。トイレマークにおいては、3名と少数であったものの、トイレ以外のマークと認識している幼児がいた。そもそも、本研究においても一応「トイレ」を表すものと位置づけ、提示をしたマークではあるものの、この男女のマークは便器など「トイレ」を模したものでなく、直接的にトイレの存在を示すものではない。であるにも関わらず、なぜ多くの幼児はこれを「トイレのマーク」と認識したのであろうか。おそらく幼児は様々な経験の中で身につけた認識と推測できるが、どのような経験によりこういった認識を身につけていくのだろうか。またもう一点、幼児の性別認識が挙げられる。今回は、「男性は青」「女性は赤」という色の違いによる性別判断が複数の年長児の間で見られた。幼児はこのような認識をどのように獲得していくのだろうか。今回の調査方法や対象児の年齢、調査人数ではそのことまでを明らかにすることはできなかった。今後、どのように色や形による性別の認識を形成させていくのかについて引き続き調査を行いたい。

表2 トイレマークに関する幼児の認識

1	男	トイレのマーク だって男と女があるもん。青やで、男は。青や。
2	女	
3	女	トイレマーク だってさ男と女があるから。女の子は赤や。
4	男	これも知ってる。トイレ
5	男	これはトイレ。わかる。
6	女	トイレ 女の子と男の子のマークがついてたらトイレって知ってるから
7	男	
8	男	トイレ 男と女の子がおるから。こっちが男でこっちが女。だって赤と青やから。
9	女	男子のマーク（どっちが？）こっちが男子でこっちが女子。色が青やから
10	女	
11	女	トイレのマーク。ここにドアがあったところに男と女のマークがある。
12	女	トイレに女の子はこっちに行く、男の子はこっちに行くっていう印。スカートみたいになってるからわかる。
13	男	これはトイレってこと
14	女	これはトイレ。見たことあるからわかる。
15	男	男と女マークがあるのはトイレ。こっちが男。青が男。こっちは斜めってるやろ。したら女。
16	男	トイレのマーク。トイレの前にある
①	女	トイレのマークだって、なんかトイレ行った時にこのマークがあったから
②	男	トイレのやつ
③	男	これトイレのマーク。あのお母さんの友達の結婚式に行った時にあった。
④	男	これ、おトイレ。
⑤	女	これはトイレのマーク。こっちが女の子、毎日トイレ行ってるから
⑥	女	
⑦	女	これ。これは行くマーク。道路渡る時に。（あ～信号の？）ウン。（こっちはどう？）これは止まれっていうこと。
⑧	男	これはトイレのマークでしょ。一瞬だけ信号かと思った。人のマークだし。
⑨	男	トイレ
⑩	女	
⑪	男	
⑫	女	これはトイレのマーク。だってお友達のお家のトイレにもついてるから
⑬	男	これ、知ってる。赤信号と青信号。
⑭	男	これはトイレ。男子と女子。（なんで？）知ってるから

表3 車椅子マークに関する幼児の認識

1	男	車いす。どんな意味かは分かん。エレベーターとかで見たことある。
2	女	
3	女	
4	男	これ園バスにある（どういう意味か知ってる？）それは分かん
5	男	カート！これカート！
6	女	これは赤ちゃんを置くところ。〇〇〇でみた。
7	男	
8	男	えっとこれなんやったっけ？みたことある。えっと…赤ちゃんが座るところ。
9	女	
10	女	
11	女	
12	女	これは車とかに骨折してる人のこと。なんかさ、車を駐車場に停めるところの下に書いてある。
13	男	どっかでみたことあるんだけどな。。どこだったかな。みたことはある
14	女	
15	男	これはトイレで見たことがある。
16	男	これはおっきなトイレの前に貼ってある。車椅子の人がちっちゃいから入れんから、入れますよっていうマーク
①	女	なんかこれとか見たことがある気がする。
②	男	
③	男	
④	男	
⑤	女	これは、あのさ、車椅子だよ。こうしてな足が動かない人はこういう椅子に乗ってな、ここにあるタイヤでこうやってしてな、そうして行くの。あのな、お外で車の一番下の所に書いてあって、駐車場に停まっていいですよって書いてある
⑥	女	
⑦	女	
⑧	男	これもトイレによくあるような気がする。
⑨	男	これは車椅子のやつ
⑩	女	トイレのマーク お店とかでみたことある。お店の中で
⑪	男	
⑫	女	おじいちゃんとかおばあちゃんとかがこうやってこうやってする、乗るやつのマーク
⑬	男	
⑭	男	トイレについてるマーク。

表4 非常口マークに関する幼児の認識

1	男	火事がおこったら、ここから逃げてっていうマーク
2	女	
3	女	
4	男	
5	男	駐車場
6	女	出口のマーク ○○○で見た！
7	男	これは出口。なんでかというと、ここに出口って漢字で書いてあるから。違う？
8	男	えっと出口。幼稚園にもあった。
9	女	これも知ってる。あの夏とかプールとかで見たことがある。意味はわからない。
10	女	これ知ってる。わからんけど。
11	女	これ、幼稚園にもある。みたことある。意味は分かん。
12	女	走らないっていうマーク。幼稚園のお部屋の中とかにある。
13	男	これは走らないって意味です
14	女	う～ん、わからないけど、みたことがある。幼稚園とかにもある
15	男	これは出口マーク
16	男	非常口！火事とか起きた時に非常口のマークがあるところから逃げる。よう見るから知ってる
①	女	
②	男	止まるやつ。幼稚園にあった。これを見たら止まる。
③	男	これ、火事の時とか地震の時とかに逃げるっていうマーク。ここから逃げる
④	男	
⑤	女	あのさ、これは急に出てくる。上見てたら出てくる。出口やと思ってた
⑥	女	
⑦	女	
⑧	男	これは出口についてるマーク
⑨	男	出口のところ
⑩	女	
⑪	男	逃げるマーク 火出るから、その時逃げる。
⑫	女	階段 階段があるよっていうこと。
⑬	男	逃げるところ。危ないことから逃げる。
⑭	男	これ、トイレに行くマーク

引用文献

- 青山裕美 (2020) 保育内容「環境」の体験による学びに関する研究 ―泥んこ遊びを通して―. 名古屋短期大学研究紀要, (38), 35-48.
- illust image (2020) トイレマーク イラストイメージ素材一覧 <https://www.illustimage.com/?id=305>
駐車場マーク : <https://www.illustimage.com/?id=5225>
- 金山茉莉花 (2019) 自然と触れ合う遊びにおける環境構成と保育者の援助に関する考察：保育内容「環境」の指導法に着目して. 新島学園短期大学子ども学研究論集, (5), 25-36.
- 片山雅男 (2019) 保育内容・環境における数と量の取り扱いの指導. 夙川学院短期大学教育実践研究紀要, (13), 21-32.
- 警視庁 (2018) 日本の特殊な道路標識・標示の意味 <https://www.keishicho.metro.tokyo.jp/kotsu/mark/hyoshiki.html> (2020/11/02)
- 胡 泰志・森野美央・加納 章・山田恵次・久保徹平 (2020) フープを用いた運動遊び プログラムに関する研究：数量への関心及び非認知的能力に着目して. 比治山大学・比治山大学短期大学部教職課程研究, 6, 8-13.
- 国際標準化機構 (ISO) (1987) FIRE PROTECTION - SAFETY SIGNS <https://www.iso.org/standard/12596.html> (2020/11/02)
- 小山容子 (2020) 保育内容「環境」の指導法に関する一考察 ～幼児が環境と関わる姿の事例検討を通して～. 教育学論集, 72, 101-110.
- 増田吹子 (2019) 保育内容としての伝統行事：領域「環境」を中心として. 久留米信愛短期大学研究紀要, (42), 11-17.
- 内藤敦子・名和孝浩 (2020) 保育内容「環境」におけるさつまいも収穫体験の意義：指導計画から分析した保育者養成課程の学生の学び. 大垣女子短期大学紀要, (61), 35-44.
- 日本障害者リハビリテーション協会 (1969) 国際シンボルマーク (車椅子マーク) について <https://www.jsrpd.jp/overview/symbol/> (2020/11/02)
- 篠永 洋 (2018) 保育内容 (環境) のこと(2)「すごろく」を通して育まれる数量・図形・文字等への関心. 活水論文集, 健康生活学部編 61, 25-36.
- 高橋哲也・小椋郁夫 (2018) 保育内容 (環境) の指導に利用することを目的としたロゴマークと道路交通標識についての保育者養成課程学生の知識の把握. 名古屋女子大学紀要, 家政・自然編, 人文・社会編 (64), 477-480.
- 田中卓也 (2020) 「保育内容 (環境)」の講義内容と学生の学びに関する一考察. スポーツと人間 4(1), 125-132.
- 遠山佳治 (2018) 東海地域のおやつ文化を教材とした保育内容「環境」の一考察：ところてん、鬼まんじゅう、栗きんとん、駄菓子. 名古屋女子大学紀要, 家政・自然編, 人文・社会編 (64), 285-291.
- 山田恵次・上之園公子 (2019) 保育内容「環境」と小学校「算数」との接続に関する研究(1). 比治山大学・比治山大学短期大学部教職課程研究, 5, 39-47.
- 山路千華 (2018) 保育内容「環境」における地域との関わりについての一考察：地域の環境素材を活かした取り組み. 白鷗大学教育学部論集, 12 (2), 29-51.
- 柳原高文 (2020) 「森のようちえん」における園児の「学び」：サイエンス・プロセス・スキルの視点から. 紀要, 13, 45-55.
- 柳原高文 (2018) 獣医師と大学との連携で行う「動物とのふれ合い授業」の意義. 社会保育実践研究 (2), 11-21.
- 郵便局 (2020) <https://www.post.japanpost.jp/index.html> (2020/11/02)